

## 第 53 回 役員会 議事要録

日 時：平成 26 年 2 月 21 日(金)10：30～11：30

場 所：北方キャンパス本館 E703 会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、松尾理事、梶原理事、  
井村理事、中野(昌)監事、中野(利)監事

### 議 案

- 1 学則の改正について
- 2 大学院学則の改正について
- 3 平成 25 年度給与改定等について
- 4 事務局組織の改正について

### 報 告

- 1 教員の採用について
- 2 一般選抜入試出願結果について

#### 議案 1 学則の改正について

<質疑応答> なし

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

#### 議案 2 大学院学則の改正について

<質疑応答> なし

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

#### 議案 3 平成 25 年度給与改定等について

<質疑応答>

○北九州市に準じて実施すると思うが、大学の経費の総額からどの程度削減できるか。また、個人の年収がどの程度下がるか試算したか。

○人件費が約 640 万円削減される。

○高年齢者の削減率 1.5%が主なもので、年収は課長職で約 10 万の減額となる。

○生涯賃金かがかなり変わるのではないか。退職金にも影響が出ると思うが、試算したか。

○試算はしていない。

○教員評価制度はあるが、人事考課制度はない。人事考課を評価にリンクさせるかどうかは今後の検討課題だ。

○スキームはどうなっているのか。

○これから教員評価委員会で検討していく。

○ひびきのキャンパスは、北方キャンパスの教員評価制度とは若干異なる。

○これまでは自己評価を中心に行ってきた。客観的評価の導入も必要になってくるとなると、評価システム自体が変わってくる。

- 休職期間は1年6か月までは満額支給とあるが、民間企業と比べてどうか。
- 民間企業であれば、休職者に対し給料が100%とはありえない。
- 給与が無給になりそうになると復帰し、再び休職する者が出てくるのではないか。
- 休職を乱用する職員に対しては、退職を勧告していく必要がある。
- 現在休職している職員や教員は大学にいるか。
- 現在はいない。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

#### 議案4 事務局組織の改正について

<質疑応答> なし

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

#### 報告1 教員の採用について

<質疑応答> なし

#### 報告2 一般選抜入試出願結果について

<質疑応答>

- 国際環境工学部の受験生の減少は、隔年現象が起きていると考えている。また、数学と理科において、平成27年度入試から試験範囲が変わるため、浪人を避ける傾向にある。これまで後期日程において受験者数が多かったが、安全志向が働いて反動で減少しているのではないか。本学を受験しなかった学生は、福岡大学や九州産業大学の工学部に入学しているようである。他の国公立大学でも同様の現象が起きている。しかし、ここ数年で偏差値が3ポイント上がったので、どこまで志願者と相関関係にあるのかが分からない。
- 後期日程でも国公立大学と私立大学は併願できるのに、なぜ私立大学に入学するのか。
- 入学手続きや試験日等の関係上、先に私立大学に決定する学生もいる。
- 将来的な問題もある。18歳人口はここ6、7年で120万人まで減っている。その中で、高校からの進学率は全国では50%を超えているのに対して北九州市は50%を超えていない。今後どこから学生を集めるかを再度検討する時期であり、高大連携で進学率を上げる努力をする必要がある。地方の公立大学は、経済状況が厳しい中で地元進学希望の学生の受け皿となっている。Super High school や Super Global も必要だが、将来的にはそういった考えも必要である。
- 今回の受験生はゆとり世代の最後となっているが、学生の学力はどうか。
- かなり厳しい。現在1年生後期の授業を受け持っているが、かなり学力が下がっている。高大連携を真剣に行い、それに基づく大学の教育制度を根本から考えないといけない。
- 国際環境工学部では、入学式の翌日に数学・物理・化学のプレースメント試験を実施し、前期に補習を行っている。約半数の学生が補習を受けているが、それでも後期の授業レベルは低くなっている。昔と違い、高校で積み上げるはずの勉強の基礎の部分が身につけていないからではないか。
- このままでは1年次の基盤教育が高校の基礎勉強の再履修の場となってしまう。高等教育が非常に多様化してきている中、高校の資格要件をどのように決定するかが明確ではない。そのため、高校生の基礎学力を図るという意味合いで到達度テストが実施されることとなった。高大連携で高校生の学力を底上げしな

- いと、影響が大学に及びかねない。
- 補習のコストはどれくらいかかっているか。
  - 予備校を退職した人や、OBの教員などを契約社員のような形で採用している。
  - 工学部志望の学生の学力が低いという話ではないのか。
  - 必要なスキルがないということである。工学部の思考は高校の勉強の積み上げの上に成り立っている。入試で勉強の範囲が限定されており、学生は入試のテクニックしか身につけていないので論理的な思考ができない。また、進学に対しての意識の違いも大きい。編入学で入学してくる高専の学生の方が伸び率は高い。
  - アドミッションポリシーを明確にする必要がある。名古屋大学の歯学部・医学部に関してはかなり明確に提示している。高校生はそれに向かって勉強するように、というアピールになる。
  - 金沢工業大学は数学と物理の授業を廃止して「数理」という授業を作った。物理的実験を行って、現象を解析する上で数学を教えるというように、物理と数学を行ったり来たりする授業である。
  - 金沢工業大学は入学時の偏差値は低いが、卒業時までの伸び率はすごい。
  - とても実務的で、ある意味専門学校的な教育方法だが、これも一つのやり方である。
  - 他大学の良い所を採用し、学生のレベルにあったカリキュラムを作っていきたい。